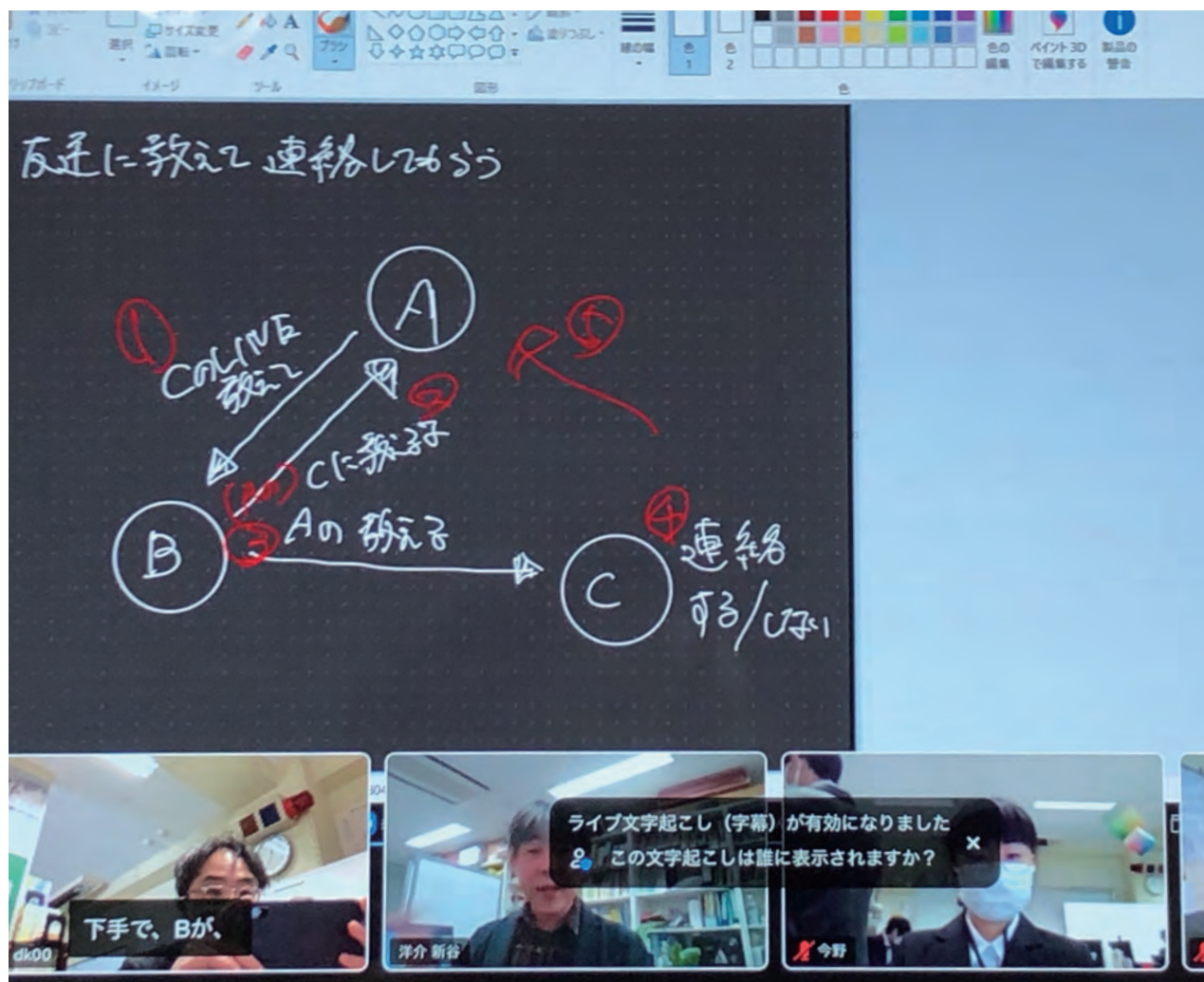


# IDDNewsletter.....4

April



## 特集1

## 2 回目の外部講師招聘授業 ～支援機器と合理的配慮、セルフアドボカシー～

専攻科情報デザイン科では、3月中に4回ほど、特別支援教育におけるICT活用の研究の第一人者である金沢星稜大学准教授の新谷洋介先生を外部講師を招聘したオンライン授業を行いました。今回は、「情報モラル」や「支援技術」「障がいのあるお子さんへの教材作成のポイント」といったことを中心に「合理的配慮」について深く学ぶことを狙いとして行いました。

## 特集2

## 3Dプリンタの活用 ～民芸的な要素とデジタル的な手法の融合～

この3Dプリンタの活用は、今年度飛躍的に利用頻度と技術の向上が見られたものの一つであります。そのノウハウを活用し、整備が進んだ本校のiPadの収納場所を作ることにしました。その制作プロセスは、非常にこなれた印象を持たせるのに十分なものでしたし、まさに日常生活に根差した工芸的要素、換言すれば民芸と3Dプリンタというデジタルな手法の融合といえるでしょう。

## 2 回目の外部講師招聘授業 ～支援機器と合理的配慮、セルフアドボカシー～

専攻科情報デザイン科では、3 月中旬に 4 回ほど、特別支援教育における ICT 活用の研究の第一人者である金沢星稜大学准教授の新谷洋介先生を外部講師を招聘したオンライン授業を行いました。今回は、「情報モラル」や「支援技術」「障がいのあるお子さんへの教材作成のポイント」といったことを中心に「合理的配慮」について深く学ぶことを狙いとして行いました。

専攻科情報デザイン科では、3 月中旬に 4 回ほど外部講師を招聘したオンライン授業を行いました。これは、北海道教育委員会が行う「ICT 就労促進事業」の利用して行ったもので、前期に行った資格取得のための外部講師派遣と同様の枠組みとなります。

今回は、「情報モラル」や「支援技術」「障がいのあるお子さんへの教材作成のポイント」といったことを中心に「合理的配慮」について深く学ぶことを狙いとして行いました。

講師としてお招きしたのは、特別支援教育における ICT 活用の研究に取り組んでいる金沢星稜大学准教授の新谷洋介先生です。

新谷先生は、以前は、北海道高等聾学校でも教鞭をとられており、聴覚障がい教育の分野においても、ICTを活用した独創的な教材作成等で御活躍されていました。

また、それ以前は肢体不自由教育における支援技術の研究で活躍されており、今は消滅してしまいましたが、Flash を利用して多くの教材を作成されました。

授業においては、Zoom を使ったオンライン形式で行われましたが、UD トークやマインドマップ作成ツールの「SimpleMind」Google Jamboardの利用等については、学生は相当にこなれてきた印象があります。

また、対象学生においても、将来的に進学の方角を目指している者もあり、進学後の学生生活を想定した学びの有り様やセルフアドボカシーといった観点について、非常に重要な示唆を与えていただいたと思っております。

最終日には、iPadOS アプリの機能である「サウンド認識」を試しましたが、なかなか思い通りに認識してくれず、学生たちはなんとか認識させようと、相当にものあがって設定等に取り組んでいました。

次年度以降、同様の枠組みが利用可能かどうかは、まだ不透明な面がありますが、今回のノウハウを蓄積し、拡充と継承を繰り返しながら、できるだけ継続していけるようにしていきたいと考えております。

IDDN



# 3D プリンタの活用 ～民芸的な要素とデジタル的な手法の融合～

この 3D プリンタの活用は、今年度飛躍的に利用頻度と技術の向上が見られたものの一つであります。そのノウハウを活用し、整備が進んだ本校の iPad の収納場所を作ることになりました。その制作プロセスは、非常にこなれた印象を持たせるのに十分なものでしたし、まさに日常生活に根差した工芸的要素、換言すれば民芸と 3D プリンタというデジタルな手法の融合といえるでしょう。

iPad も整備が進み、すべてにキーボードを取り付け、スマートペンシルも整備しました。利用の有り様も、教師、生徒ともかなりこなれてきた印象があり、来年度以降、今年度よりさらに活用の幅が広がっていくことが期待されます。

そのときに、課題となるのが片づけ方法とその場所です。

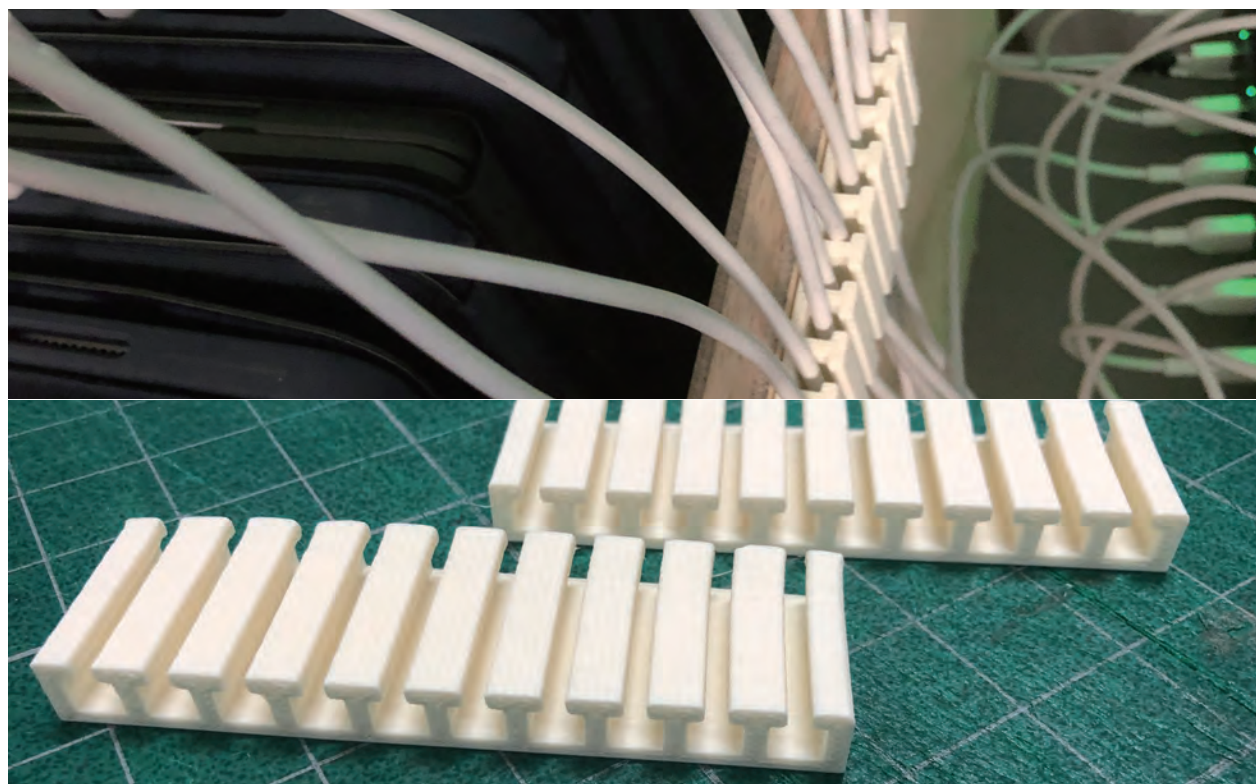
きれいに整理し、維持していくにはそれなりの戦略が必要であると考えます。

できるだけ低コストに、かつ、美しい収納のために、今回は専攻科学生に 3D プリンタを活用してもらって、iPad の USB Lightning ケーブルを束ねるためのサポートツールを作ってもらいました

この 3D プリンタの活用は、今年度飛躍的に利用頻度と技術の向上が見られたものの一つであり、このツールの設計やデータ作成も、これまでの経験を活かしながら、「ちょいちょい」と作成していました。完成したツールは、コードを実にちょうどよくはめ込むことができ、非常に使いやすいものになっています。

今後も日常と芸術との間を行き来しながら、アートとしての属性を失わないようにしつつ、より生活の豊かさを実感できるようにするための「デザインの思考」が重要にあってくると考えられます。

IDDN



# Contents

## 特集1

### 2 2 回目の外部講師招聘授業 ～支援機器と合理的配慮、セルフアドボカシー～

専攻科情報デザイン科では、3月中旬に4回ほど、特別支援教育におけるICT活用の研究の第一人者である金沢星稜大学准教授の新谷洋介先生を外部講師を招聘したオンライン授業を行いました。今回は、「情報モラル」や「支援技術」「障がいのあるお子さんへの教材作成のポイント」といったことを中心に「合理的配慮」について深く学ぶことを狙いとして行いました。

## 特集2

### 3 3Dプリンタの活用 ～民芸的な要素とデジタル的な手法の融合～

この3Dプリンタの活用は、今年度飛躍的に利用頻度と技術の向上が見られたものの一つであります。そのノウハウを活用し、整備が進んだ本校のiPadの収納場所を作ることになりました。その制作プロセスは、非常にこなれた印象を持たせるのに十分なものでしたし、まさに日常生活に根差した工芸的要素、換言すれば民芸と3Dプリンタというデジタルな手法の融合といえるでしょう。



*Welcome to Information Design Department!!*

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」  
を手にとっていただき、ありがとうございます。

令和3年度もいよいよ最後です。

今年度も、コロナ禍の中、相当な学習上の制約が多かったですが、反面、さまざまな環境整備の工夫やICTの活用により、これまではできなかったさまざまな先進的な試みにチャレンジできた1年でもありました。

今年度の取組について、単に前例踏襲で終わることのないよう、常に新しい属性を実装し、要素を拡張させ、より未来へつながる技術として確立させていきたいと思います。

皆様、来年度もよろしくお願いいたします！



情報デザイン科学科だより

Information Design Department

# IDDNewsletter

April 2022 4

IDDNewsletter April 2022

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。